大学教育を考える

I think about the education of the university

國本 隆*

Takashi KUNIMOTO*

太平洋戦争で完敗した日本は、民主主義国家として再建し発展するために、米国の協力支援により、約40年の歳月を経て経済大国に成長した。国民の血の^{にじ}滲むような努力が、世界の日本にしたことは事実であるが、あらゆる分野で多くのひずみを生じ、絶大な恩を受けた米国を始めとして多くの国々から批判されていることは、厳粛に受け止めなければならない。その原因に関わる教育問題は、国の施策のうち最も重要な課題である。それは長期計画に基づき実施されるので、その成果がすぐ顕著に現れるものではない。ゆえに、教育改革は慎重にして、拙速は避けるべきであるが、理想を求めるために現実の不備不良を放置することは許されないと思う。

大学は、最高学府として、その使命と任務の重要性をいくら強調しても強調し過ぎることはない。学問と研究の自由および自治という崇高な理念に基づき、多様化かつ情報化時代において、大学教育はこれでよいのかとの問いに対し、決してよいとは言えないであろう。とすれば、いかにあるべきか。またいかにすべきかを問い直し考えなければならない。

(1) 教育目標の明確化 国公立、私立を問わず、大学の使命は明確でなければならない。学ぶ学生に分り易いもので、かつ、実行可能なものが良いと思われる。一方、時代と社会のニーズに答え得るのであり、各大学がそれぞれ特色を生かし、魅力ある大学にする必要がある。特に、マンモス化した大学は量より質に重点指向し、教育と研究の質的向上を計るべきではないか。能力のない学生に安易に卒業証書を与えるべきではないし、また、学生を受け入れる社会においても、学歴偏重や序列化の是正が望まれるところである。

(2) 人材の育成と国際化 日本が世界の優れた一国家として、尊敬されるためには、長い歴史的過程と文化の蓄積が必要なことは論を俟たないが、日本人自身が世界の人々から信頼される民族とならなければならない。したがって、大学出の人々の知性と見識が政治、行政、学問、教育等の分野で重要な部位を占めることを認識するとともに、大学は創造性豊かにして、教養を高め立派な人格を備えた人間を形成するよう努力を払う必要がある。またさらに、社会、人文、自然科学の基礎分野の充実を図り、かつ、視野の広い人材を育成するため、教師と学生が積極的に外国との交流を行うと共に、国としても諸施策の実施を容易ならしめるよう配慮が肝要である。そして、国際的にも通用する誇り高い大学にしなければならない。

(3) 教育および研究用施設、機械器具と予算 大学の使命である教育と研究の効率的運用を図るため、施設、機械器具等の整備充実が不可欠である。当然、それに伴う予算の獲得が必要である。しか

* 元防衛庁技術研究本部 研究所所長 工学博士
現東海大学教授
受理日：昭和63年4月5日

し、国公立と私立の大学との格差が大きいことは、大いに反省を要する点である。限られた国家予算の中で、私立大学への助成は種々問題はあるが、特に、自然科学の領域において充実と改善が望まれる。比較的恵まれている国の研究機関と大企業の機械器具等を私立大学に払い下げ、有効利用することも一案と考える。一方、社会、人文科学分野においても、調査研究等のため、特別の予算の増加が必要である。

(4) 大学院大学の設置 狭い国土で、日本ぐらい大学が乱立している国は他にないであろう。このことは、大学が営利を目的とした企業としての性格を持ち、大学の本来の使命と節度を忘却している感が深い。これを根本的に考え直し改善しても、専門教育と基礎研究の高度化を図るためには、大学院大学の設置が急務である。この場合、既存の大学がそれぞれ競って大学院大学の設置に参画することは慎むべきである。まず手始めとして、少数の大学において試行し、その成果を適切に評価し改善を図ることが望ましい。大学院として研究の振興と優秀な人材の育成に努力を払うべきである。

(5) 大学の公開 一般に、大学は閉鎖的で、機能が硬直化していると言われる。原因のいかんを問わず、今日ほど社会が多様化し、情報過多になっていると、好むと好まざるとにかかわらず、大学は公開せざるを得ないであろう。それは結局、開かれた大学として活性化を図り、地域社会と連携を保つことにより、教育の質的向上と付加価値の高い有形無形のメリットを社会に還元する結果になるからである。民間企業との人事交流、共同研究の促進および情報の活用等により相互依存を高めることは、国民全体の知識のレベルアップに役立つであろう。企業あるいは富豪者の寄付により、特に、私立大学において、教育内容や研究環境が改善されるならば、極めて望ましいことである。なお、寄付行為に対し、国として税制上の優遇処置を考慮したり、大学としても寄付者の名前を何らかの形（たとえば、研究所名、図書館名、講座名等）を残すことも一案と考える。以上述べた骨子を纏めてみると、別図に示すとおりである。（大学とその周辺との関連）

大学とその周辺との関連

(6) その他 教育目標の設定が明確になれば、カリキュラムと教育方法が改善される。その場合、人文、自然科学の専門分野において、日進月歩の社会のニーズに対応するために事前の評価と成果の評価を忘れてはならない。また、大学を運営していくための組織、制度、人事等においても積極的な改善を計らないと、九^{じん}仞^{びん}の功を一^き貫^{おそれ}に欠く慮がある。民主主義国家において、大学における学問と研究の自由は、大切な財産である。これなくしては大学の存在価値はないし、国家の発展も望めない。それだけに、自由には責任と義務が伴うことを肝に銘じ、国家および国民に迷惑をかけないようにすべきである。

これを要するに、教育は国の存亡に関わる問題である。小、中学校、高等学校教育と共に、大学教育の目的達成は極めて重要である。教育審議会等で色々審議され、幾多の問題が摘出されている。改革にあたっては、全部でなくても、多くの人々が良いと思うことは決断と実行が必要である。失敗を恐れては決して前進はない。たとえ失敗しても、常に反省し、原因を究明し、速やかに適宜適切な処置を講ずることを忘れてはならない。